

令和6年度 西都市立三納小中学校 「学校運営協議会評価書」			評 価 規 準		自己 評価	学校関係者評価（学校運営協議会）
【学校教育目標】 未来を切り拓く気概をもち、自ら学び、心豊かにたくましく生きる 三納っ子の育成 【めざす学校像】 高みを目指して、学び、自立する児童生徒を育む学校			4 → 十分達成できた      3 → 概ね達成できた      2 → あまり達成できなかった      1 → 達成できなかった			
項目	重点目標及び到達目標	具体的な取組	考察及び改善策			
基礎学力と学習意欲の向上	（重点目標） 1 読み・書き・計算力の向上 （小） 各教科の基礎的基本的学習内容の定着（中） 2 読書活動の推進 3 ICT の活用による学びの拡充 （到達目標） 1 全国・県及び西都市の学力検査でそれぞれ平均点以上を目指す。 2 「読書が好きである」を肯定的に答える児童生徒の数を増やす。 3 ICTを活用し、主体的に学んだり、対話的に学んだりすることに肯的な児童生徒の数を増やす。	【具体的な取組】 ○ 「学びの確認の時間」や授業の中で習熟を図る時間を確保し基礎的基本的な学習内容の定着を図る。 ○ キュビナや問題集・学習プリントを活用し、一人ひとりの学習進度や習熟度に応じた指導を行うことで読み・書き・計算力の向上や各教科の基礎的基本的な学習内容の定着を図る。 ○ 「読書通帳」を活用し、読書意欲を高める。（小） ○ 「家読の日」を設定し、読書をする環境づくりに努める。（小） ○ 読書ボランティアによる「読み聞かせ」を月に1回実施する。（小） ○ 登校後に読書の時間を設定し、学級文庫を充実させ、静かな雰囲気の中で読書に親しませる。（中）  ○ デジタル教材、ロイロノート、シンキングツール、キュビナ等 ICT を活用し、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを促す。	○ 到達目標を達成することができた学年や教科が少なかったが、「授業に意欲的に取り組んでいる」と答えている児童生徒数は多く、保護者や教員の評価もおおむね良好であった。「学びの確認の時間」や授業の中で習熟を図る時間を設定し、キュビナや問題集・学習プリントを活用して指導し、少しずつ成果を出している児童生徒が増えているが、テストの結果に表れていない。読む力、書く力の向上が必要である。 ☆ さらに児童生徒の学習意欲を高める授業づくりを図るために、協働的な学びや個別最適な学びを取り入れたり、読む力や書く力を鍛えたりしながら、学力向上を図っていく必要がある。また、家庭学習の習慣を定着させるため、課題の出し方や保護者への啓発の仕方を検討する必要がある。 ○ 児童生徒、保護者、教員の自己評価は低かったが、「意図的な図書室利用」「読書貯金通帳の活用」「家読の日設定」「ボランティアによる読み聞かせ」「登校後の読書時間の設定」「学級文庫の充実」等が、児童生徒の読書意欲の向上につながり、読書について肯定的に答える人数が昨年度より増えた。また、学校の取組に対する保護者の評価が高かった。学年が上がるにつれ、児童生徒や保護者の評価が低くなっていることから、メディアへの依存や習い事・部活動での時間的余裕のなさ、家庭での読書習慣がないこと等が考察される。 ☆ 「読書が好きである」と肯定的に答える児童生徒の数が少ない現状があるので、今年度の具体的な取組を継続しながら、学校において更に読書の時間を増やしたり、小中の交流を通した読み聞かせをしたりしていきたい。また、保護者と連携して、家庭でも読書する雰囲気づくりに努める必要がある。 ○ ICT を活用するために年間を通して職員研修（主題研究）を行い、職員の ICT 活用能力を高めた。授業での ICT 活用が増え、小学部では肯定的に評価している児童が多かったが、一方で中学部では、評価が低かった。これは、活用するときに接続不良や効用感を感じていないことが考察された。 ☆ 更に主体的対話的な学びになるよう職員の指導力を高め、紙ベースと ICT とのハイブリットな活用が必要である。			
	思いやりと向上心の育成	（重点目標） 1 コミュニケーション能力の向上 2 縦割り・協働活動の推進 3 プラス1チャレンジ （到達目標） 1 アンケートの「思いやりと向上心」に関する質問に肯定的に回答する児童生徒の数を年度当初と比較して増やす。（あいさつ、協調性、目標に向かって努力する姿勢）	【具体的な取組】 ○ 日常生活の中で、あいさつや返事の指導を行い、相手の目を見て、元気よくあいさつできる児童生徒の育成を図る。 ○ 学級活動等とおして、ソーシャルスキルトレーニングを行い、ソーシャルスキルを高める。 ○ 清掃当番を縦割りにすることで、協働活動を推進する。 ○ 児童会活動や生徒会、学校行事等において縦割り活動や協働活動を行い、異学年での望ましい人間関係を醸成する。  ○ キャリアパスポートを活用してプラスワンチャレンジに取り組ませ向上心を高める。（小） ○ 日常の学校生活や家庭生活をととしてプラスワンチャレンジに挑戦させることで向上心を高める。（中）	○ あいさつの指導については一定の効果が出ていると思われるが、小学部教員の評価が低かったことから、「目指しているあいさつ」と「実際のあいさつ」との差があると思われる。 ☆ 今後も教師の率先垂範で「自分から先に、元気よく」あいさつができるように常時指導していく。 ○ 「思いやりや優しさを大切にして過ごしている」と答えている児童生徒が多く、児童会活動・生徒会活動や清掃をととしての協働活動がよりよい人間関係づくりに繋がっていると考えられる。 ☆ 小中学校のよさを生かして、小学部と中学部の協働活動を増やしていきたい。人権に関する授業を意図的に実践するが、異学年でのグループによる協働的な学び等、授業や人権週間における活動の工夫を図ってきたい。また、ソーシャルスキルを身に付けさせるために、教師が活用できる資料を整備する等の策を講じる必要がある。 ○ 児童は肯定的な評価だったが、学年によっては、目標を設定しその目標に向かってチャレンジしていく姿勢に課題が見られた。プラスワンチャレンジの意図が共有できないまま進んでしまい、プラスワンチャレンジにつなげられなかったようだった。 ☆ 努力している姿等を随時称賛しながら、学級活動や総合的な学習の時間に、自分を見つめ、目標に向かって計画を立て努力させる指導を行っていく必要がある。		
		たくましい心と体の育成	（重点目標） 1 自力登校の推奨 2 睡眠教育の推進 3 運動に親しむ心と体の育成 （到達目標） 1 荒天時や体調不良等、特別な場合を除き、徒歩や自転車で登校する児童・生徒の数を増やす。 2 体力テストで昨年度以上の結果を出す児童・生徒の数を増やす。	【具体的な取組】 ○ 全校集会や朝の会・帰りの会をととして、自力登校の意義や睡眠運動の大切さを児童生徒に啓発するとともに、学級通信等や保健だよりをととして保護者の意識を啓発する。  ○ 長期休業中明けの睡眠チェック生活週間を設定し児童生徒に自らの生活リズムを振り返らせる。  ○ 体力向上プランをもとに保健・体育学習の充実を図り、運動の楽しさを味わわせる。 ○ 授業前にサーキットトレーニングに取り組ませ、基礎的な体力を身に付けさせる。 ○ 昼休み時間にグラウンドで遊ぶことを奨励する。（小）	○ 自力登校については、（小学生 70%中学生 82%）で自己評価と保護者の評価では差がなく、概ね良好であるが、教師による評価ではそれより低いものとなっており、差異が見られた。生徒総会や朝の会・帰りの会をととして、自力登校の意義や睡眠運動の大切さを児童生徒に啓発するとともに、学級通信等や保健だよりをととして保護者の意識付けができたのではないだろうか。 ☆ まずは「歩いて登校」「学校手前 500mは歩く」など提案していきたい。 ○ 長期休業明けに睡眠チェック週間を設定し、児童生徒に生活リズムを自ら振り返らせた。児童生徒の睡眠に対する評価は肯定的だが、保護者・教員の評価が低いことから、学年が上がるにつれて児童生徒がメディアコントロールできていないことが分かる。 ☆ メディアコントロールに関して、児童生徒及び保護者の意識啓発を図り、生活のリズムを改善させる必要がある。 ○ 80%以上の児童生徒が進んで外遊びや運動に取り組んでいると答えており、小学部1学年と中学部1学年を除き、体力テストで昨年度以上の結果を出すことができた。 ☆ 外遊びや運動に苦手意識をもっている児童生徒に、体を動かすことの楽しさを感じられるような体育学習の充実や集会活動の企画をしていく。	
家庭・地域との連携・協働	（重点目標） 1 学校運営協議会との連携推進 2 地域学校協働活動推進委員との連携推進 3 三納地域づくり協議会との連携推進 4 保護者との連携推進 （到達目標） 1 読み聞かせの時間が楽しいと肯定的に答える児童の数を増やす。 2 「さいと学」の時間が楽しく、充実していると答える児童生徒の数を増やす。（三納のことが好き、三納に貢献したい、三納のよいところと言える。）		【具体的な取組】 ○ 学校運営協議会との連携を図り、読み聞かせを実施する。 ○ 地域学校協働活動推進員との連携を図り、さいと学・総合的な学習の時間や学校行事を充実させ、学習の効果を高める。 ○ 「さいと学」をととして、ふるさと西都や三納のよさ（自然、歴史、文化、産業、ひと、もの、こと）を知り、児童生徒自身がこれからの生き方を考える機会とする。 ○ 各学部・各学年で体験学習や地域貢献活動を実施する。 ○ 三納地域づくり協議会や保護者と連携を図り、「三納フェスタ」を児童生徒と地域の方々との温かい交流の場とする。 ○ 学校行事やPTA 行事、PTA 各専門部の活動をととして児童生徒の成長に資する活動を推進する。	○ ボランティアの方々との協力を得て、読み聞かせを実施することができ、児童からも大変好評であった。 ○ 本年度は、「三納川の水質調査」「平郡十五夜踊り」「三納を盛り上げる人」など新たな地域素材を活用した学習を行うことができた。また、今後につなげるために、『三納地域と学校の連携・協働 年間計画案』を作成した。地域学校協働活動推進員と連携を図ったことで、職場体験学習の受け入れ先が広がり、生徒の学びが深まった。 ○ 三納地域づくり協議会や保護者と連携を図り、「三納フェスタ」を児童生徒と地域の方々との交流の場となった。 ☆ 『三納地域と学校の連携・協働 年間計画案』『総合的な学習の時間 年間指導計画』に、随時書き込みしながら、ネットワークの整備を充実させていく。 ☆ 学校の教育活動について、学校だよりやホームページなどで積極的に発信していく。 ☆ 「三納のよいところと言える」と「三納のことが好きである」と答える児童生徒の割合は多いが、「将来にわたり三納に貢献したい」と肯定的に答えた児童生徒の割合が小学部6年生と中学部全学年に少ないことについては、その原因を探る必要がある。		

